

# 平成23年度 【大学振興会研究奨励補助】研究成果報告書

学部名 人間関係学部

フリガナ フジワラ ナホ  
氏名 藤原 直子

研究期間 平成23年度

研究課題名 女性のライフスタイル関連授業の効果 -女子学生のキャリア意識に着目して-

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	藤原 直子	人間関係	教授
研究分担者			
研究分担者			

### 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

本研究の目的は、女性のライフスタイルに関する授業の教育効果として、学生のキャリア意識にどのような影響を及ぼすのかについて考察することである。現在担当している「ライフスタイルと人間関係」において毎年、ゲストを数名よび講演してもらっている。本学卒業生のライフスタイルに関する話を実際に聞くことで、学生の将来展望に関してどのような意識形成へとつながるか、授業前半と後半にキャリア意識に関するアンケート調査を行い、比較検討を行う。それらの作業を通して、女性のライフスタイルに関する教育実践の教育効果および方向性を探ることを目的とする。

### 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

授業開始直後と後半にキャリア意識調査のためのアンケートを経年で行い、比較検討を行った。キャリア意識の測定には、梅澤正(2007)の大学生に望まれるキャリアマインド確認のためのセルフチェックシートを学生自身が自問自答するように問いを変えた岡田龍樹(2009)質問紙に就業意欲に関する項目を加えたものを利用した。調査は、「ライフスタイルと人間関係」の受講者106名(有効回答数102)名を対象に、授業2回目と最終時に同じ質問紙で実施した。調査項目としては、「自己完遂への意志」、「仕事充実志向」、「自己発展志向」、「関係性の確立」(梅澤 2007)、および就職活動の開始時期、雇用形態、就業継続意欲などの項目である。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本研究では、女性のライフスタイルに関する科目「ライフスタイルと人間関係」(筆者担当)の受講者における授業前半と後半のキャリア意識の変化をみるために質問紙調査を行い、キャリアマインドにおける「自己完遂への意志」、「仕事充実志向」、「自己発展志向」、「関係性の確立」の4つのテーマに対し5段階評価で回答してもらった。質問項目はすべての項目に「非常に大切」と回答した場合、総得点100、4つのテーマの最高が25ポイントである。調査は、半期の授業前半と後半の2回、授業内に質問紙を配布し回収した。回答者については、科目受講登録者は118名のうち、第一回目が106名、第二回目が104名である。

調査結果の概要は以下のとおりである。

- ・ 総得点の平均は、第一回調査 76.94→第二回調査 78.69 で 1.75 ポイント高くなっている。
- ・ テーマ別の平均値は、自己完遂志向 (19.43→20.38) で 0.95 ポイント、仕事充実志向 (17.86→18.08) で 0.22 ポイント、自己発展志向 (19.02→19.35) で 0.33 ポイント、関係性確立志向 (20.63→20.88) で 0.25 ポイントと、いずれの項目も第二回調査でポイントが高くなっている。
- ・ 質問項目別の平均値の変化で上げ幅が大きかった項目は、「成り行きに流されないよう信念をもって生きる」(3.85→4.06 : +0.37)、「可能性を求めているいろいろトライしてみる」(3.89→4.16 : +0.27)「自分の持ち味を探し、個性的な生き方をする」(3.67→3.93 : +0.26)、「自分がやりたいことに、時間と金を重点的に配分する」(3.55→3.76 : +0.21) である。
- ・ ポイントが下がった項目は「責任ある仕事やポストをまかされるようにする」(3.35→3.29 : -0.09)、「当面のことにとらわれず、将来を見据えて生きる」(3.79→3.73 : -0.06)、「挑戦しがいいのある仕事を探し求める」(3.65→3.60 : -0.05) の3項目であった。

調査結果からみると、ゲストスピーカーである多様な職種の卒業生の話聞くことで学生のキャリア意識に多少ではあるが変化が見られた。今回の調査は2年目であり、前年度の調査と比較すると、全体的にポイントが下がっており、調査前後の平均値の上下に関する項目にも変化が見られる。この点に関しては、来年度も調査を行い、経年変化について分析する予定である。本調査においては、「信念をもち、自分の可能性・持ち味が発揮できるような生き方」を構築しながら、キャリア形成していこうとする意識が高くみられた。ライフスタイル関連の授業を通して、自らの人生における人との関係性の確立や自己完遂志向に比べて、平均値のポイントが低かった仕事充実や自己発展への志向性を高める授業をいかに展開していくかが今後の課題である。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①キャリア教育	②キャリア意識	③ライフスタイル	④授業研究
⑤女子学生	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

現段階では、調査結果の分析途中であり、分析結果については『椋山女学園大学研究論集』第44号に投稿予定。